令和7年度　学校評価報告書

1 本年度の重点目標

1　確かな学力と高い専門性を育む教育活動の推進(基礎学力および高い技術・技能の習得と学ぶ意欲の向上)
2　将来のスペシャリストとしての総合的な資質・能力を育む教育活動の推進(優秀な工業人材の育成)
3　活力に満ちた特色ある学校づくりの推進(課外活動の活性化と生徒の活躍できる舞台作り)
4　ゆめづくりとその実現にむけた教育活動の推進(理想の進路の具現化)
5　信頼される学校づくりの推進(業界・地域からの高い評価と満足度の高い学校づくり)

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A　達成している　　B　おおよそ達成している　　C　あまり達成していない　　D　達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① わかる授業について	B	今年度の学校評価アンケート結果の中で、「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられる授業実践を行っている」の回答は生徒90.4%・保護者93.6%、「授業を通じて、知識・技能が身に付いている」は生徒93.0%・保護者97.0%と肯定的評価を受けていた。また、これらの項目に対しての教職員自己評価についても、それぞれ5.0%増加している。 ICTの活用や教員の創意工夫により、生徒へわかる授業の実践をし、一定の成果が出ているといえる。ただ、みやぎ学力状況調査によると、「2学年の授業がわかる」と回答した割合が減少している結果もある。このことは、専門的な内容が深まってくるにつれ、難しさを感じる生徒がいると考えられる。生徒一人ひとりへ目を向け、個別最適な学びを提供していけるよう、教職員間で情報共有を密にしていく。	A	A
	② 授業時間の確保について	B	今年度は、臨時休業等による授業日数減少の防止と授業時間の確保を念頭に休業日数を2日減らした年間授業日数を計画した。 ここまで、10月中旬～インフルエンザA型、1月下旬～B型の校内での感染拡大もあり、学級閉鎖がのべ22クラス(複数回含む)だった。こうした状況の中でも、授業日数を確保しつつ、学びを止めないためのClassi等学習支援ツールの活用や、教員からの学習課題の提示等を行っていた。 こうした状況から、感染症拡大対策も授業時数確保にかかる重要な要素であると考えられるため、保健厚生部などとも協力して、学校全体で授業へ向き合う時間を確保する方策を検討し、実践していく。	B	A
	③ 授業の取り組みについて	B	2年間続けて定員を満たす生徒が入学し、3年生も含め目標を持って学びへ向き合う生徒が多くなってきている。授業や実習においてのなぜ？を自ら質問する生徒も多くなり、熱心に授業へ取り組む生徒が多数となってきている。その一方、多様な生徒が入学し、これまでの学習指導(学習支援シートや追指導)だけでは支援が難しくなっている現状もある。 特に、学年が上がるにつれ、専門科目でのつまずきが増えており、きめ細かでタイムリーなサポートが必要となっている。また、学習面以外での悩みにより授業へ集中することが難しい生徒もおり、教育相談部、SC、SSWとの連携し、生徒個人に応じた学びの提供や不安を取り除く術を行っていきたい。	A	A
	④ 日常の学習時間について	B	今年度のみやぎ学力状況調査の結果から、「平日における家庭での学習時間」が30分未満の割合は、1学年は53.4%(県平均36.8%)、2学年は66.6%(県平均46.7%)という結果であった。昨年度と比較すると、1学年は+19.0%、2学年+9.1%と家庭において学習に向き合う時間が非常に少なくなっている。 県全体の結果を見たとき、宿題・課題の頻度が家庭学習時間と相関関係にあることがわかる。実習のレポート作成等、日常的に課題へ取り組むことは行っているが、学習支援ソフトClassiをできる限り活用するなどして、日常的に「学習へ向き合う要素」を作り出す等、継続的な学習習慣を構築していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	間口を広くして目的意識をもった生徒を育てることができるのは、先生方のきめ細やかな対応があってのことだと思う。日常の学習時間の計り方についてはものさしの整備が必要ではないか。				
生徒指導	① 基本的生活習慣の確立	B	基本的生活習慣の確立に向けた指導について、教職員・生徒・保護者いずれのアンケート結果でも前年度より向上し、高い評価を得た。特に挨拶やマナーの指導では教職員87.3%、生徒91.3%、保護者92.0%と継続的な取組の成果が見られる。 また、校則を踏まえた社会的常識の育成についても教職員93.7%と改善が進んでいる。今後も日常指導を充実させ、主体的な生活態度の育成を図っていきたい。	A	A
	② 交通安全意識の高揚	A	交通安全意識の高揚に向けた指導については、アンケート結果から教職員・生徒・保護者のいずれも前年度より評価が向上し、特に生徒は90.9%と高い成果が見られた。 今年度は自転車通学者全員のヘルメット着用を義務化し、安全意識の定着に努めたことが効果として表れている。今後も登下校指導や啓発活動を継続し、安全な交通行動の習慣化を図っていきたい。	A	A
	③ 生徒の自主的活動の推進	B	生徒の自主的活動の推進については、部活動と学校行事の両面で高い評価が得られた。部活動は教職員100.0%、生徒95.2%、保護者95.0%と、前年度を上回り活発に取り組まれていることが確認できる。 また、学校行事の有意義さに関しても生徒93.9%、保護者97.8%と高い評価が続いており、自主的・主体的な活動の充実が図られている。今後も多様な活動機会を設け、生徒が自ら考え行動する力をさらに育成していきたい。	A	A
	④ 思いやりの心といじめ根絶	B	生徒からの相談やいじめ等の問題行動への対応については、教職員間の連携を強化し、早期発見・早期指導の体制が機能している。アンケート結果でも教職員94.9%、生徒88.5%、保護者90.2%と前年度より改善が見られる。 また、年2回の保護者アンケートを通して家庭での様子も把握し、学校と家庭が連携した支援につなげている。 今後も迅速かつ丁寧な対応を継続し、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めていきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	課外活動の取り組みもすごいと思う。自転車通学者に対してのヘルメット着用の義務化に踏み切ったところは少し心配であったが、生徒たちがマナーを守ろうという意識が見られたところはよかった。SCへの相談はさまざまであるが学校をしっかり続けられるよう見守っていってほしい。				
進路指導	① 進路目標の明確化に向けた適切な指導	B	各学年において、段階的な進路情報の提供及び各種ガイダンスや各学科と連携した説明会の実施。各種ゼミの実施。安易に進学を選択する生徒が増えていることから、進学する必要性を問い質す指導を行う。先生方の協力による継続的な取り組みを続ける。	B	A
	② 進路情報の発信と明瞭化	B	就職希望者については、就業地別の一覧表作成による求人票の公開やパンフレット等の閲覧室を利用した公開を行うと共にPDF化した求人票の利用を促進する。また、進学希望者については、普通教科の協力を得た進学ゼミ(英数国)の実施及び各種模擬テスト等の案内、指定校の情報公開を行う。	B	B
	③ 計画的な進路指導と志教育の推進	B	進路活動を通して社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方につなげられるようにする。進学者の増加に伴い、進学情報も充実させられるよう受験雑誌「蛍雪時代」の定期購読を行う。	B	B
	④ 進路目標の早期確立	B	進路調査や適性検査などを通して、自己の適性を知り、将来自分が就きたい職業について探求させる。また、2年次のキャリアセミナーや進路別合同説明会、大学の出前授業などを通して、明確な進路目標を決定できるようにする。加えて、3学年の状況は2学年主任、1学年主任にも伝えることで共有し、各学年で進路目標の早期確立の一助とできるよう努める。	A	A
	⑤ 希望進路の達成	A	民間企業への就職希望者は146(県外は54)名で全員内定をいただいている。進学は、大学・短大が71名、職能大6名、専門学校等30名であり、まだ1名、大学一般受験の生徒がいる。公務員も4名が合格している。今年度は就職希望者が58.5%で、進学希望者が41.5%であった。一社目での内定率は95.8%と高かった。進学についても国公立合格者が9名と各学科の指導が成果を上げている。このような結果を継続できるよう、努力していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	生徒への寄り添い、関わりが非常にすごいと思う。求人票が3,000件を超える中で生徒が興味のある企業を見つけやすくするための工夫が必要ではないか。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 思いやりのある行動の醸成	地域の方が参加する学校行事や外部講師を招いての授業、校外学習などを通して多くの人と関わり、相手の考えを尊重する気持ち（SNS上も含む）を育てることで、日ごろの学校生活を充実させていく。
② 情報活用能力の向上	令和８年度よりご家庭で学習者用端末の準備をしていただき活用していく中で、授業や家庭学習をとおして生徒一人ひとりの理解度や関心に応じて学ぶ「個別最適な学び」と他者と協力しながら課題に取り組む「協働的な学び」の一体的な充実を図っていく。